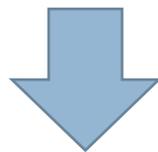


デイサービス「笑う門」の 新規プログラム提案プロジェクト

東京家政学院大学
多摩大学 共同プロジェクト

本プログラムの目的

リハビリデイサービス「笑う門」、東京家政学院大学、
多摩大学という三者が協力をして、「笑う門」におけ
る新規プログラムを提案し、実施する。



「笑う門」という**企業**の目線
東京家政学院大学の**福祉**の目線
多摩大学という**経営**の目線を活用して
プログラムの提案を行う。

1年間の流れ

日時	出来事	内容
2013年5月9日	全体ミーティング	本プロジェクトの方向性を具体化
6月22日～9月24日	実習	笑う門での実習を行い現状の把握をする
7月13日	フィールドワーク	多摩ニュータウンの現状を把握
9月	各大学でのミーティング	これまでの実習で得た現状の把握から課題の確認、及びプログラムの立案
9月21日 10月9日 11月7日	全体ミーティング	
11月14日	プロジェクトの実行	

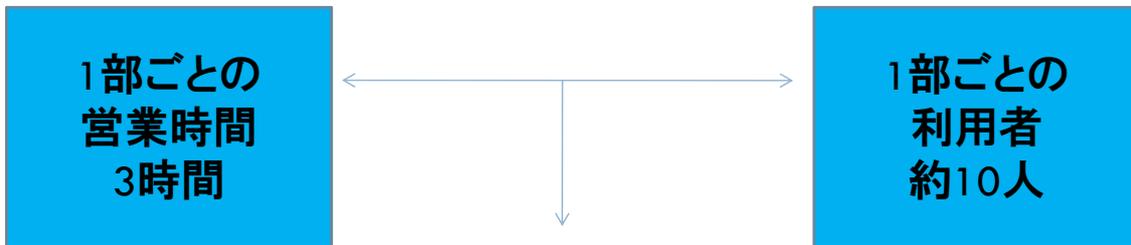
「笑う門」とは

- 企業名:株式会社グリーンベル
- 所在地:東京都多摩市愛宕1-12-101(1号店) 及び103(2号店)
- 利用時間
午前09:00～12:00 午後13:00～16:00 計2部
基本的に1部ごとに約10人の利用者
- 理学療法士とマンツーマンのリハビリテーションを主として運営されている。



実習等における 「笑う門」の現状と課題(1)

リハビリ時間の短さ



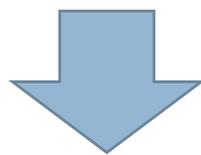
(1人当たり18分程度のリハビリ時間)

+

リハビリ外の時間がおよそ2時間40分程度ある

実習等における 「笑う門」の現状と課題(2)

リハビリ外の時間で行うレクリエーションに満足していない利用者もいた。



「リハビリ以外の時間をどうやって
皆が楽しく過ごせるのか」

本年度のプロジェクト

- 実行日:11月14日 午後の部13:00~16:00
- 企画
 - ・過去を懐かしむようなアンケートを作成
 - 時代劇についてアンケートをとる
 - ・時代を少しずつ切り取ったスライドの作成
 - 1960~現在までの印象的な音楽や出来事を映像で視覚化する

本年度のプロジェクト

なぜ時代劇や昔のことを取り上げる事にしたのか。

- 昔の事を思い出す、というきっかけから
共通の話題も生まれ、普段しない
“思い出す”という行動が出来る為。

普段1人ではしない事の“きっかけ”を作るプロジェクトが有効なのではないか

プロジェクト企画の際、苦勞したこと

- 利用者の方それぞれの価値観の違い
- 個人情報が出ないかどうか
- 不快に感じてしまう人は出ないだろうか
- 暇をもてあましてしまう人がいないだろうか
- 利用者の方、スタッフの方双方が楽しめるか

利用者の方々のこれまでの生き方が異なる
→価値観の違いによって問題が起きないか

企画による効果

そして、今回の企画によって

目的

昔のアンケートを取ることで、そのアンケートの話題から利用者同士のコミュニケーションを促進する。

そして、元気だった昔を思い出すことで、その活力でリハビリテーションに繋げる。

- **結果**として、利用者新しい楽しみを提供でき、リハビリテーション外の時間への対応になる。

プロジェクトの結果と考察

- 当日の利用者は8名(男性4名女性4名)
- 時代劇のアンケート
 - ・アンケートを軸に話を盛り上げることができ、次の企画に繋ぐ事ができた。
 - ・アンケートの内容が限定的過ぎた。
- 時代を切り取ったスライド
 - ・映像のように実際にリアルに思い出しやすく、感度も刺激されていたのでは。
 - ・映像や音楽を使ったリハビリ外時間を作ることも感動的なリハビリになるのでは。

今後の課題

- 『持続的な経営の確立』
 - ・今回の企画は継続的に行えるものではなかった。
→継続的に行えない事は**経営**としては成立しない。
- 簡単なことから持続させていく
- 経営の1部分として組み込む

- ・複雑な事柄を最初から持続する事は難しい。
- ・経営の1つの要素にすることで継続化を計れる。

まとめ

【分かった事、感じたこと】

- 経営と福祉や、経営と顧客の面を見なければ、継続的な経営はできないということ
- 福祉の面から考える提案でも、実際に施設の運営という枠の中で考えると、現実性のある、なしが問題として発生してしまうということ

ご静聴ありがとうございました。